

# 学校自主研修事業（特色ある学校づくり） 県外視察報告

宮城県貞山高等学校

## I. 北海道高等学校遠隔授業配信センター

### 1. 視察概要

期日：令和5年11月14日（火）13:20～16:00

場所：北海道高等学校遠隔授業配信センター（t-base）

北海道有朋高等学校内 札幌市北区屯田9条7丁目

#### ★北海道高等学校遠隔授業配信センターについて

- ・令和3年発足
- ・教員数…23名／道内31校に週に235時間の授業を配信。
- ・配信教科…国語・数学・英語・理科・地歴・公民・情報・芸術（音楽・書道）  
※英数は習熟度授業、一部で合同授業（2校への配信授業）も実施
- ・文科省「地域社会根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構想事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）」指定（R3～R5）

視察事項：①遠隔授業（配信側）の見学

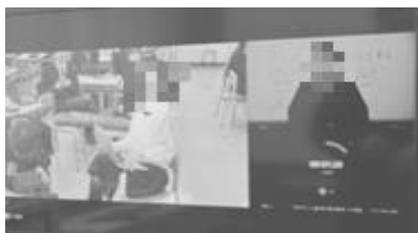
#### ②情報交換会

- 1) 受信校との連絡・情報共有について
- 2) 授業評価について
- 3) 授業を配信する上での工夫や課題について

### 2. 遠隔授業の見学

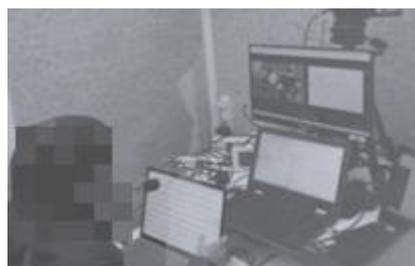
火曜日5時間目の配信授業（音楽Ⅰ、コミュニケーション英語ⅡおよびⅢ、物理、数学B）を見学

#### ・音楽Ⅰの授業



琴の授業。生徒の様子も画面からよくわかり、気になる生徒がいる場合はズームしてみることもでき、直接話しかけてフォローしていた。

#### ・英語の授業



授業のスタイルに合わせて、複数のPCを使用している。

#### ・物理の授業

グリーンバックを背景に使用しており、他の画像（教科書・ノート等）と合成することで、生徒から見ると先生が「教科書の中に入って」説明しているように見える。



### 3. 情報交換会

#### 1) 受信校との連絡・情報共有について

- ・年間や月毎の予定については、学校の代表者間で調整するようにしている。加えて、細かな予定（2～3週間先）のスケジュールを代表者（教務）が確認して全体で共有する。
- ・北海道の場合、31校の受信校で時程をそろえている。学校行事等の関係で生徒が途中で抜けたり入ったりする場合もあるが、授業時間の確保ができるよう先を見据えてスケジュールを組んでいる。複数校合同の配信授業の場合、合同で授業ができるのは8割くらいである。

#### 2) 評価について

- ・提出物は主にクラスルームでの提出。プリントに書き込み、それを写真で撮って提出する形式である。文書の場合は Google ドキュメント、または Google Jamboard を使っている。
- ・受信校の教務規程で評価することになっているため、定期テストは年度初めに受信校に教務規程を確認している。習熟度別の授業の場合、配信の教員が考査の一部を作成することもある。単位の認定は各受信校が行っている。

#### 3) 授業を配信する上での工夫や課題について

- ・英語や数学等の授業に関しては習熟度別授業を行なっている。上位のクラスが配信授業、下位のクラスは生徒に対して直接のサポートが必要なので受信校の先生が対面で受け持っている。
- ・配信方式はソニーの IPELA（イペラ）と Google Meet が基本になっている。それに加え、書画カメラ、パソコン、iPad など担当者が必要な物を工夫して使い分けている。
- ・教室には、複数の配信ブースがあり、各教科担当の先生方はそれぞれのブースから授業を配信する。
- ・受信校では、教科外教員のほか、校長管理下の学習支援員も授業を管理することがある（「地域社会根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構想事業」指定による要件緩和）。
- ・単位認定に必要なため、年に2回受信校を訪問する「対面授業」を実施する。
- ・朝の打ち合わせや職員会議は実施していない代わりに、Google チャットを活用している。また、授業で工夫していることやチャレンジしていること等、各教員の思いを共有するために「リフレクション」の場を設けて情報共有をはかっている。

### 3. その他(進路指導に関して)

- ・夏期講習、冬期講習を受け付けている。夏には基礎学力の定着や土台作り、大学入学共通テスト対策など計20講座を配信した。学力の定着を図るために、クラスルームに設置した質問箱から質問を受け付け、個別に指導を行なった。
- ・放課後は、配信センターがハブとなり教員向けの研修会や生徒向けの説明会を実施している。  
（例）教員対象…ベネッセガイダンス、志望理由書研修会等  
生徒対象…看護・医療セミナー、公務員ガイダンス、ベネッセガイダンス等

## II. 北海道虻田高等学校

### 1. 視察概要

日時：令和5年11月15日(水) 11:10~12:40

場所：北海道虻田高等学校

- ・ 全日制 事務情報科
- ・ 全校生徒数 54名 (1年20名・2年19名・3年15名)
- ・ 職員構成

校長	教頭	教諭	再任用	養護教諭	実習助手	事務 (非常勤含)
1	1	9*	2	1	1	3

\*国数英理社体各1名/商業科3名/芸術科なし

- 視察事項：① 遠隔授業(受信校)〔書道I〕の見学  
② 配信校との連絡・情報共有について  
③ 受信校の工夫と課題について

### 2. 遠隔授業〔書道I〕の見学

受講生徒：1学年20名 受信校担当教諭：1名(理科・再任用) 場所：4F書道教室

受信校機材等：大型モニター スクリーン プロジェクター マイク スピーカー リモートカメラ  
Chromebook(生徒用) ※ビデオ会議システム「IPELA」の機材を利活用

#### 〈授業の流れ(一部抜粋)〉

- ・ 配信側の教員が書画カメラを利用し、実際に書きながらポイントを説明する。(写真①)
- ・ 生徒はChromebookのカメラを使って自分の手元を写し、Meet機能で常時書いている様子を教員が観察する。(写真②)
- ・ 個別に注意点や改善点があれば当該生徒に呼びかけ、前方のクリーンに注目させ、指導する。
- ・ 各自その日の提出作品を撮影しJamboardの個人ページに貼り付け、感想等を加える。(写真③)
- ・ 次回の授業までに教員が評価や改善点を入力する。
- ・ 授業内で個々のページを全体で共有しながら解説する。



写真①



写真②



写真③

◎受信校の教室正面

受信側の教室を  
写すカメラ

配信教員を写す  
大型モニター



配信側教員 PC 画面  
(プロジェクター)

### 3. 受信校の工夫と課題について

- ・通年で1名の教員（理科）が担当。今年度の担当教員は3年目で、机や機材の配置、生徒の動きなど、毎年試行錯誤しながら環境を整えている。
- ・マイクを教室の中央に設置し、どの位置にいる生徒の声も配信側に届くようになっている。
- ・リモートカメラは配信側から動かせるようになっており、教室全体から個々の手元まで見ることができ。作業の様子がはっきり写るため、練習が進んでいない生徒にも配信側の教員が声がけしやすい。
- ・作業スペースとして1人2台の机が与えられており、書道の道具だけでなくChromebookを置くスペースも十分にある。
- ・墨汁や半紙などの消耗品や、道具を洗う流し台、作品を提出するための個人ロッカーなど、生徒が自ら準備や後片付けができる環境が整えられている。そのため、受信校の担当教員による支援等が必要な場面はほとんどなかった。
- ・1クラス20人の芸術科目（書道）であるため、遠隔授業が成立しているとも感じている。
- ・受信側は教科外の教員が担当するので、授業中の支援や声がけなど、どこまで関わるべきか悩む場面がある。

### 4. その他【地域連携の取組について】

- ・「地域ビジネス（商業科目）」「総探」を中心に、各教科で実施。
- ・有珠山や洞爺湖が近いため、「防災」や「観光」を軸にしている。
- ・体験的実践的な学習で、「生徒を地域に出す。地域と関わらせる。」ことを積極的に行う。

〈活動例〉

■ ボランティア

洞爺湖マラソンボランティア、手湯足湯清掃ボランティア

■ 各種講演会等

洞爺湖の成り立ち、一日防災学校、有珠山ジオパーク

■ 地域と連携した学習

昭和新山登山研修、西山火口見学、中学生対象乗船ガイド

